令和８年度　みどり市岩宿文化賞
授賞式

日時　　令和８年１０月３１日(土)
　　午前９時３０分
場所　　岩宿博物館２階常設展示室

主催　みどり市

ごあいさつ

本日ここに、令和８年度みどり市岩宿文化賞授賞式が盛大に開催できますことを、主催者として厚く御礼申し上げます。

これまでご支援をいただきました地域の皆様をはじめ、多くの来館者や関係者の皆様に対しましても心より感謝申し上げます。

令和８年は相澤忠洋氏生誕100周年、岩宿遺跡発見80周年、みどり市誕生から20周年という大きな節目を迎えた年になりました。このメモリアルイヤーに向けて、みどり市岩宿博物館常設展示室の改修工事や岩宿ドームの解説アニメのリニューアルなど、様々な取り組みをおこなってまいりました。そして令和８年10月３日、無事に岩宿博物館がリニューアルオープンすることができました。

本年度は、例年実施している岩宿文化研究奨励賞の学生部門に加え、３年に一度実施する岩宿文化賞および研究奨励賞の一般部門についても選考を行いました。岩宿文化賞には多くのご推薦・ご応募をいただき、なかでも岩宿文化賞本賞には、全国の研究機関等から４名の候補者をご推薦いただきました。選考委員会による厳正な審査の結果、国武貞克（くにたけさだかつ）氏が受賞者に選ばれました。国武氏は、長年にわたり日本列島の岩宿時代研究に取り組み着実に研究を充実させた研究者で、日本列島における旧石器時代文化の起源の問題を世界的な視点から解明すべく海外での調査を実施するなど、現在最も注目される研究者の一人です。学生部門には、339人から294点の応募があり、厳正な審査の結果、優秀研究賞を小学生、中学生、高校生の部から各１点、全体からユニーク研究賞１点、努力賞10点を選考いたしました。岩宿博物館が改修工事により閉館している中、多くの児童や生徒の皆様が岩宿遺跡や相澤忠洋氏について調べ、研究してくださったことは、みどり市にとって大きな励みになりました。また、特別功労賞として長年にわたり岩宿博物館の活動を支えてくださった岩宿博物館友の会を表彰いたします。

今後ともみどり市は岩宿遺跡を中心とした文化財の保存活用事業を推進し、岩宿時代研究を奨励し、また多くの児童生徒の皆さまが、考古学や歴史文化に興味を持つきっかけとなるよう取り組んでまいります。

結びに、岩宿文化賞の運営にあたりご指導、ご助言を頂きました関係各位に深く感謝申し上げますとともに、受賞者の皆様が、岩宿時代研究の奨励と教育文化の発展に貢献されますことを祈念し、挨拶といたします。

令和８年10月31日

みどり市長　須藤　昭男

岩宿文化賞授賞式次第

第1部　表彰式

1．開式のことば
2．主催者あいさつ
3．選考経過及び受賞者紹介
4．本賞受賞者講評
5．表彰
6．来賓祝辞
7．受賞者祝辞
8．閉式のことば

第2部　受賞者フォーラム

9．開式
10．学生部門賞優秀研究賞作品発表
11．岩宿文化賞記念講演
12．閉会

岩宿文化賞受賞者報告

経歴



氏　　名：国武（くにたけ）　貞克（さだかつ）
生年月日：１９７５年 千葉県生まれ
勤 務 先：独立行政法人 国立文化財機構
　　奈良文化財研究所　主任研究員
最終学歴：２００４年 東京大学
　　博士（文学）

受賞理由

国武貞克氏は、長年にわたり日本列島の旧石器時代、「岩宿時代」研究に取り組み、着実に研究を充実、拡大させ現在最も注目を浴びている研究者である。

当初は関東甲信越地方から東北地方南部の石材調査という地道な研究を着実に行っている。そして、石材の獲得とその利用から人類の移動や居住のあり方へと研究を深化させ、その調査研究に基づいて、2008 年には環境変動と石材獲得戦略の変化から石器群と遺跡形成を説明する「回廊領域仮説」を提唱した。さらに、その過程で高原山の黒曜石原産地遺跡群を発見し、その発掘調査により黒曜石の開発とその利用実態を明らかにした。

その後は上記のような基礎的研究を踏まえて、日本列島における旧石器時代文化の起源の問題を世界史的な視点から解明すべく、海外での調査を実施している。中央アジアは日本列島へ石刃技法を携えたホモサピエンスが到来する経路上に位置する。その地域における遺跡や石器群の調査とその報告を行い、石刃技法発展のプロセスを掌握することによって日本列島における石刃石器群の起源を理解する上で重要な基礎的研究成果を提示した。

そのような中、新型コロナ感染症問題のため、海外調査が不可能となったため、国内での調査に移行した。2020～21 年の長野県香坂山遺跡の調査では、3万 7000 年前という国内最古級の石刃石器群の検出に成功した。その石器群に認められる中央アジアの石器群との共通性を指摘し、日本列島への最古の石刃石器群の流入の様相と北回りのホモサピエンスの動勢の一端を明らかにした。また、このような研究に基づいて同遺跡の調査成果を地元や一般に広く還元、普及する活動も積極的に行うとともに、遺跡の重要性を十分に踏まえて史跡指定へと導いている。

2023 年から開始した広島県冠遺跡群の調査は、日本列島中央部に位置する香坂山遺跡と同様な石刃石器群を、さらに大陸に近い地域で明らかにするという意欲的な目的をもったものである。そのような中、第 8 地点の調査において想定していた石器群のさらに下位から石器群を検出し、多くの理化学的な年代測定から 4 万 2300 年前という年代値を公表している。石器群については本年度も調査しており、今後の研究に委ねる部分はあるものの、その年代と石器群が提示する問題は、日本列島における後期旧石器時代を遡るあるいは始原に関連するものである。国武氏は当該地点の調査成果から南回りのホモサピエンスの列島への流入についてダイナミックな仮説も提唱しており、現在学会で最も注目を集めている遺跡の調査研究といえる。

国武氏は着実な基礎的研究から出発し、現在では世界的視野を踏まえた広い視野から先進的な研究を推進している。最新の科学的な方法を踏まえた発掘調査により研究のキーポイントとなる具体的な資料と仮説を提示することで、岩宿時代の始原を解明しつつあり、他の研究者の追従を許さないほどの最先端の研究を積極的に推し進めているといえる。以上のような国武貞克氏の研究業績は、岩宿時代の研究とその発展を願って創設された本賞にふさわしいものである。

主な著作・論文等

須藤隆司と共著 2025「香坂山インダストリーからみた日本列島旧石器研究の再編」
『長野県考古学会誌』167 1-9 頁
下岡順直 , 早田勉と共著 2023「長野県香坂山遺跡における姶良 -Tn 火山灰層上位の
石刃石器群」『日本考古学』57 103-114 頁
国武貞克 2023「日本列島最古段階の礫群とその機能－香坂山遺跡と石の本遺跡の礫
群の比較から－」『考古学ジャーナル』784 19-23 頁
国武貞克 2023「日本列島後期旧石器文化の起源と成立に関する試論」
『奈良文化財研究所 文化財論叢』V 3-16 頁
国武貞克 2023「香坂山遺跡の石器群と中央アジアの初期後期旧石器時代遺跡」
『考古学ジャーナル』777 5-9 頁
國木田大 , 佐藤宏之と共著 2022「石刃石器群の起源からみた日本列島における後期旧
石器文化の成立」『考古学研究』69(2) 56-73 頁
須藤隆司 , 中村由克と共著 2022「香坂山遺跡の立地と遺跡構造」
『旧石器研究』18 101-111 頁
国武貞克 2021「日本列島最古の石刃石器群の発見－長野県佐久市香坂山遺跡の学術
目的の発掘調査－」『古代文化』73(3) 42-52 頁
須藤 隆司 , 堤 隆と共著 2021「日本列島最古の石刃石器群の構成とその起源」
『旧石器研究』125-146 頁
国武貞克 2021「中央アジア西部における初期後期旧石器時代 (IUP 期) 石器群の追求
と日本列島到来の可能性」
『アジアにおけるホモ・サピエンス定着プロセスの地理的編年的枠組み
の構築 5』11-20 頁
国武貞克 2020「タジキスタン中期旧石器時代研究の現状と展望」
『旧石器研究』16 19-42 頁
タイマガンベトフ ジャケンと共著 2020「カザフスタン南部における後期旧石器時代前期
小石刃生産技術の様相－ビリョックバスタウ・ブ
ラック 1 遺跡出土の小石刃核の徹底分析から－」
『旧石器研究』16 59-78 頁

ほか多数

岩宿文化研究奨励賞受賞者報告

岩宿文化研究奨励賞・学生部門受賞者報告

１．小学生の部　優秀研究賞

氏　名　野村 駿太（大間々東小学校6年生）

作品名　「相沢忠洋ものがたり ～赤土から掘り起こして～」

調べたことと、勾玉作りの体験をしたことをよくまとめており、それを丁寧に解説してい手描きの絵本形式で構成センスが非常に高い。文献調査が徹底されており、相沢氏の努力が読み手に伝わる完成度の高い作品である。



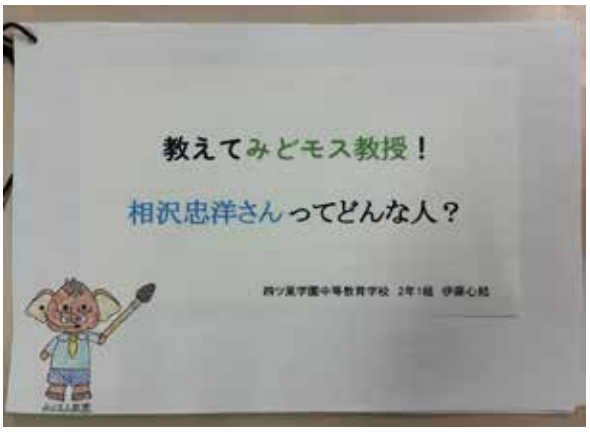


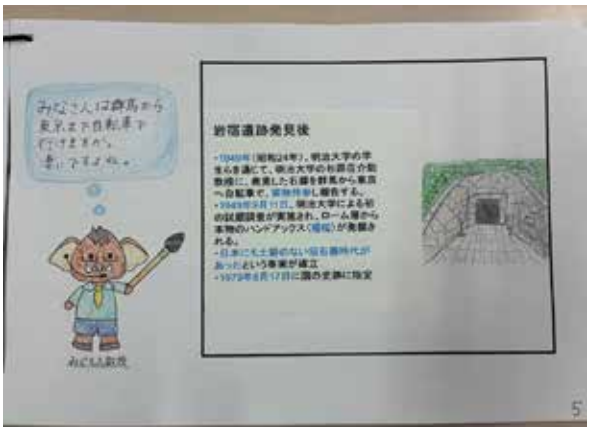
２．中学生の部　優秀研究賞

氏　名　伊藤　心結（伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校２年生）

作品名　「教えてみどモス教授！相沢忠洋さんってどんな人？」

スライド形式を採用しプレゼンテーションを意識した構成である。キャラクター(みどモス)を活用し、相沢氏の人物像を簡潔に伝えている。また研究を継続的に進めていることも評価できる。





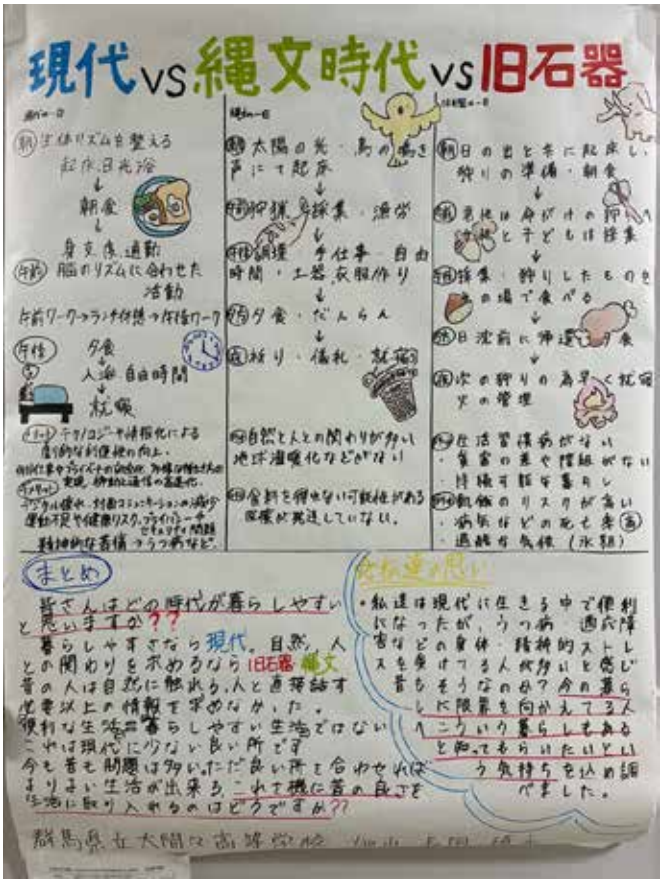
３．高校生の部　優秀研究賞

チーム　チーム畑山

氏　名　長岡樹杏・畑山龍真・須永湖子（群馬県立大間々高等学校３年生）

作品名　「岩宿時代（旧石器）vs 縄文時代 vs 現代 充実した暮らしは？」

歴史的視点に留まらず、現代社会との比較を行うなど提案性に富んでいる。ポスターとしての情報整理が明快である。



４．ユニーク研究賞

チーム　大珠＆正宗

氏　名　羽廣大珠・藤生正宗

（笠懸東小学校６年生）

作品名「岩宿時代人と動物」

飛び出す絵本の仕掛けや石器の標本箱など、デザイン性と工夫が秀逸である。複数の資料を読み比べた形跡があり、非常に丁寧に仕上げられている。



５．努力賞

努力賞に選考されたそれぞれの作品は、岩宿時代や縄文時代について、①調べたことや学んだことを自分のものにしている、②興味を持ったことに時間をかけて調べている、③疑問に思ったことを一生懸命努力して理解しようとしている、④自分の手でていねいに作り見やすいものにしている、⑤子供らしい豊かな表現がされている、といった点を評価しました（掲載順不同）。



笠懸西小学校　チーム黒曜石　５年生 篠原維吹　３年生 篠原綺更
２年生 篠原綸花「岩宿遺跡について調べたよ」



大間々北小学校５年生　ルフロン莉々衣
「相沢忠洋さんのミニ銅像」



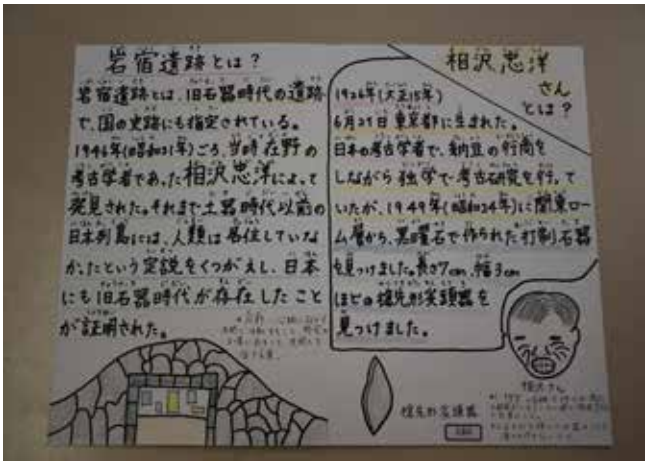
笠懸東小学校６年生　尾池流歌
「「岩宿時代へタイムスリップ！」岩宿遺跡すごろく」



あずま小中学校７年生　木村結生弥
「旧石器時代の生活について」



大間々南小学校　岩宿時代探検隊　６年生 児玉茉優　泉優梨花
「日本に人間がいたのは旧石器時代から！？～ますぞうと宿男のタイムトラベル～」



大間々南小学校６年生　野崎唯葉
「岩宿遺跡と相沢忠洋さんの「奇跡と軌跡」」



笠懸北小学校６年生　今泉萌美「石器について」



群馬県立中央中等教育学校１年生　中村大和
「２万年の時を超える比較考古学」



大間々東小学校４年生　石原彩葉
「縄文時代と今をくらべてみよう」



笠懸小学校６年生　笹崎風音
「岩宿遺跡の昔」

岩宿文化賞　特別功労賞　岩宿博物館友の会

岩宿博物館友の会は、岩宿時代や縄文時代について、仲間とともに学習を深め、博物館活動に貢献しようとする人々の集まりで、岩宿博物館の開館の翌年である平成５年に発足しました。友の会には、石器作りサークル・土器作りサークル・古代料理研究会の３つのサークルがあり、多くの会員がそれぞれのサークルで活動しています。現在、会員は関東地方を中心に約 70 人が登録されています。

友の会の皆様は、長年にわたりボランティア指導員として岩宿博物館が行う体験学習事業に多大な貢献をされ、昨年度は延べ 266 人の会員にご支援いただきました。多年にわたる友の会の活動に感謝するとともに、今後のさらなるご発展を祈念いたします。

岩宿文化賞について

１．趣旨

昭和 24 年における岩宿遺跡の発見・発掘によってもたらされた事実は、日本列島における旧石器段階の人類の存在を立証したことのみならず、真に科学としての日本歴史研究の幕開けとなった出来事でした。

この岩宿遺跡の発見をきっかけとして、その後全国で数千カ所に上る遺跡が発見され岩宿時代（日本列島の旧石器段階）文化研究も大きく進展していますが、岩宿遺跡の発掘調査で確認された事実は現在でも研究の基礎として活かされている事実があります。このことは、まさに岩宿遺跡が日本の岩宿時代文化研究の原点として、今日もなお重要な価値をもっているということの証でしょう。

『岩宿文化賞』は、こうした重要な価値をもつ岩宿遺跡の発見・発掘を記念し、岩宿時代文化研究の進展に貢献したと認められた研究者に授与されるもので、研究の進展とその質的向上に寄与することを目的とします。

また、平成８年度からは賞の対象者を専門の研究者だけでなく、広くアマチュアの考古学愛好者の業績まで含めるため、『岩宿文化研究奨励賞』を設置いたしました。今後とも、多くの人々の力によって岩宿時代文化の研究が進められることを願って設けられました。

そして、さらに平成 15 年度からは地域の子供たちが岩宿遺跡をより一層身近なものとして感じ、地域の誇りとして思い、将来は岩宿文化賞をめざすような研究者も育つことも展望して、『岩宿文化研究奨励賞』のなかに『学生部門賞』を設け運営しております。

なお、これらの賞が将来的に若い研究者の励みとなり、岩宿時代文化研究がさらに盛んになることを願っております。

２．選考の方法

（１）岩宿文化賞及び岩宿文化研究奨励賞一般部門賞

全国の主な教育機関、研究機関、行政機関及び研究者より候補者の推薦を受け、その候補者の中から選考委員会が選考します。

○令和 8 年度岩宿文化賞選考委員

小菅将夫（元岩宿博物館館長）、亀田直美（日本考古学協会副会長）、須藤隆司（明治大学 研究・知財戦略機構 黒耀石研究センター客員研究員）、堤隆（日本旧石器学会会長）、加藤真二（（独行）国立文化財機構奈良文化財研究所飛鳥資料館館長）、川道寛（西海市大瀬戸歴史民俗資料館学芸員）

（２）岩宿文化研究奨励賞学生部門賞

小学校・中学校・高等学校の在籍者を対象とし、岩宿遺跡や岩宿時代・縄文時代について総合的な学習や夏休みの課題として取り組んだ自由研究や学習成果、並びにクラブ活動の成果等を公募し、その中から優秀な作品、ユニークな作品や努力が認められた作品に対して各賞を選考します。学生部門賞の選考は、岩宿文化研究奨励賞学生部門選考会議を開催して選考します。選考会議は、社会教育、学校教育の関係者で構成されます。



みどりつづく みらいつなぐ